

ナショナルミニマム不在の医療・交通 これからの生活保障に向けて

なぜ、へき地に医師が足りないのか
なぜ、生活の足がボランティア頼みなのか
自己犠牲の精神を乗り越えるために

- 国民の生活を支える上で重要な役割を果たす医療と公共交通は、同じ病理を共有しています。
- いずれもプライベートセクターがその主体であり、移住や自家用車といった代替手段があります。
- こうした背景から、ナショナルミニマム水準に国民合意が存在せず、へき地医療や過疎地交通は地方自治体によって辛くも支えられています。
- 本シンポジウムでは、法で供給義務を規定される郵便、通信、水道等他の生活基盤と異なる「難しさ」を、両分野を比較しながら浮き彫りにするとともに、今後の展望について考えます。

参加費無料

令和5年 2月26日 日 (受付開始12:00) 13:00▶17:30

会場

島根大学医学部附属病院ギャラクシー
島根県出雲市塩冶町89-1 みらい棟4F

参加
方法

【お問い合わせ先・参加申込み先(申込みフォームよりお申し込みください)】

日本プライマリ・ケア連合学会
学生研修医部会中四国支部

<申込みフォームアドレス>

<https://forms.gle/bDUFJyxFViqrXDoR8>



本シンポジウムでは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し実施いたします。
ご来場の際はマスクの着用手指消毒など感染拡大防止へのご理解・ご協力をお願いいたします。

オンラインで同時配信



当日はzoomでのオンライン配信も行います。
申込フォームをご確認ください。

ナショナルミニマム不在の医療・交通

入場無料

シンポジウムプログラム

12:00 ▶ 受付開始

13:00 ▶ 緒言

13:05 ▶ 基調講演①

離島における地域医療の提供と ナショナル・ミニマム保障

島根大学法文学部教授

関 耕平 氏

経歴

2000年 岩手大学卒
2005年 一橋大学大学院経済学研究科
単位取得退学
同年 島根大学赴任
2020年 同 教授
博士(経済学)



14:40 ▶ 事例報告



過疎地交通の現状と今後

株式会社バイタルリード
代表取締役

森山 昌幸 氏

地域医療を支える 島根県の取組と今後

島根県健康福祉部 医療統括監

谷口 栄作 氏



13:50 ▶ 基調講演②

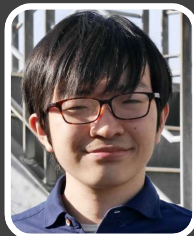
揺れるナショナルミニマム —公共交通分野を中心に—

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻
広域システム科学系人文地理学分野博士課程

山本 卓登 氏

経歴

2016年 東京大学文科一類入学
2020年 東京大学教養学部学際科学科
地理・空間コース卒業
2022年 東京大学大学院総合文化研究科
広域科学専攻広域システム科学系
修士課程修了(博士課程在学中)



救急空白

—『生命権』保障における
法・政策の空白領域として—

一般社団法人グローバル交流推進機構 理事

田中 厳 氏

生存権保障の一手段 としての公共交通

—政策のあり方を
実務現場から考える—

一般財団法人計量計画研究所 研究員

何 功 氏



会場案内

島根大学医学部附属病院 みらい棟4Fギャラキシー

【アクセス方法】

出雲市駅—附属病院

バスでお越しの方

- 日御碕線、大社線—上塩
治車庫行にて島根大学病
院下車(1番のりば)
- 小田線、須佐線—上塩治
車庫行にて島根大学病院
下車(2番のりば)
- 根波線—島根医大病院下
車(2番のりば)

徒歩でお越しの方

出雲市駅南口から徒歩25分
(タクシー約5分)



主催：日本プライマリ・ケア連合学会
学生研修医部会 中四国支部
島根大学鉄道研究会
中国地方学生鉄道連盟

後援：島根大学医学部環境保健医学講座
島根大学医学部地域医療支援学講座
島根大学医学部附属病院総合診療医センター